

戸田市シティセールス戦略

首都に隣接 オアシス都市 憩う、育む、楽しむまち

平成23年6月

戸 田 市

(目次)

I. 戸田市シティセールス戦略策定の趣旨と概要	1
1. 策定の背景・目的	1
2. 本戦略の位置づけ	1
3. 計画期間	2
4. 戸田市シティセールス戦略の概要	3
II. シティセールスをめぐる現状と課題	4
1. 戸田市の現状	4
(1) 位置	4
(2) 交通	4
(3) 自然、地域資源	4
(4) 人口	4
2. 戸田市の都市イメージ	5
3. シティセールスをめぐる課題と対応	5
(1) 明確な都市イメージがない ⇒ 目指す都市イメージを構築	5
(2) 情報発信の不足 ⇒ 情報発信力の強化	5
(3) 個別資源の活用 ⇒ 資源や強みの活用と創出	5
III. シティセールス展開の基本方針	7
1. 基本的な考え方	7
2. 推進の目標	7
3. 戸田市が目指す都市イメージ	7
4. 推進体制	7
IV. 推進戦略	9
1. ターゲット	9
(1) 対象地域	9
(2) 対象者	9
2. 2つの戦略	10
(1) 戦略1. 様々なメディア、機会を活用した情報発信	10
① 戸田市の広報メディアの効果的な活用	10
② 新たなメディア、媒体の活用	10
③ イベントの機会を活用した情報発信	10
④ ターゲットエリアでのPR活動の展開	10
(2) 戦略2. 発見！戸田市の魅力	10
① シティセールス推進管理体制の確立	11
② 多彩な人材を活用した情報発信の推進	11
③ 戸田市を知るための学習・体験機会等の提供	11

④	強みや特性を活かした資源の磨き上げ	11
⑤	戸田市の新たな魅力の開発	11
3.	アクションプラン	11
(1)	戦略1. 様々なメディア、機会を活用した情報発信	11
①	戸田市の広報メディアの効果的な活用	11
②	新たなメディア、媒体の活用	12
③	イベントの機会を活用した情報発信	12
④	ターゲットエリアでのPR活動の展開	13
(2)	戦略2. 発見！戸田市の魅力	14
①	シティセールス推進管理体制の確立	14
②	多彩な人材を活用した情報発信の推進	14
③	戸田市を知るための学習・体験機会等の提供	14
④	強みや特性を活かした資源の磨き上げ	14
⑤	戸田市の新たな魅力の開発	16
4.	重点プロジェクト	16
(1)	情報発信力強化プロジェクト	17
(2)	フィルムコミッション設立プロジェクト	17
(3)	市のキャラクター選定・活用プロジェクト	17
(4)	都市イメージ強化プロジェクト	17
V.	資料	18
1.	戸田市人口移動実態調査 分析結果	18
2.	戸田市人口移動実態調査 調査票	26
(1)	転入者	26
(2)	転出者	29
3.	まちづくり戦略会議の記録	32
4.	まちづくり戦略会議メンバー	33

I. 戸田市シティセールス戦略策定の趣旨と概要

1. 策定の背景・目的

シティセールスとは、まちの魅力を市内外にアピールし、人や企業に関心を持ってもらうことで、誘致や定着を図り、将来にわたるまちの活力を得ることにつながる活動です。

今、我が国は人口減少社会を迎えています。都市間競争が進む中、他との差別化を図り、住民や企業に「わがまち」を選択してもらう活動に力を入れる自治体が増えています。

戸田市は、2007年「サステナブル都市調査」¹において、全国第3位(県内第1位)、さらに、2008年「行政サービス調査」²サービス水準総合ランキングで全国第8位(県内第1位)など、いわば都市の基礎力で外部から高い評価を受けています。しかし、本市の認知度は低く、魅力や住みよさなどが市内外に充分認識されていない状況にあります。そこで、本市もシティセールスに取り組むことで、まちの魅力を積極的にアピールする必要があるのではないかと考えました。

これを受け平成20年度に戸田市政策研究所、平成21年度には、戸田市まちづくり戦略会議と戸田市政策研究所が連携し、2ヶ年にわたり「戸田市におけるシティセールスの必要性と成功する要件について」の研究³を行いました。その結果、本市においてもシティセールスの取り組みが必要であるとの結論が得られております。

本戦略は、この研究を踏まえ、本市のシティセールスの方向性を示し、取り組みを的確に進めるために策定しました。

2. 本戦略の位置づけ

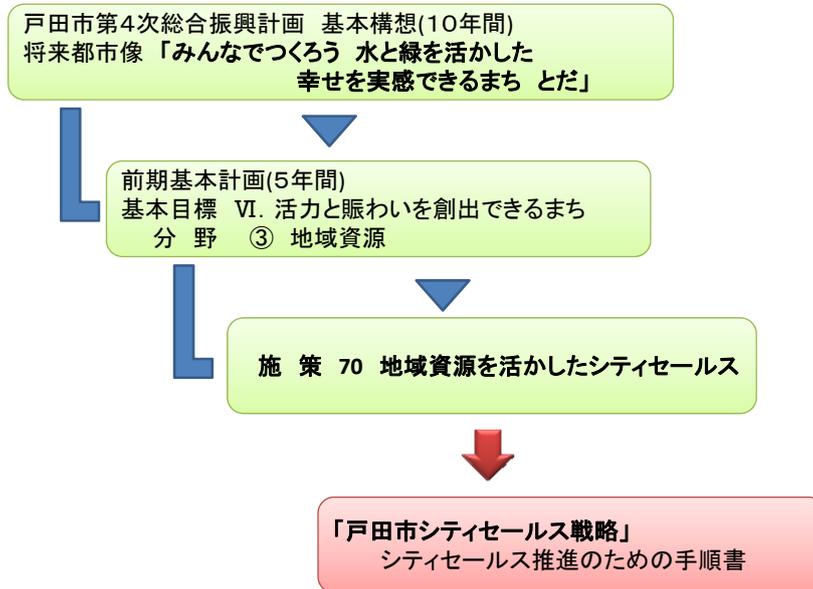
本戦略は、第4次総合振興計画基本構想に掲げる将来都市像の実現に向けた、基本目標「6. 活力と賑わいを創出できるまち」、分野③「地域資源」、施策70「地域資源を活かしたシティセールス」の達成に向け、本市の持つ強みや特徴＝地域資源を十分に活かし、魅力を創造し発信する、シティセールス推進の手順書と位置付けます。

1 日本経済新聞社が平成19年10月に全国782市を対象に実施。「環境」「経済・財政」「暮らし」の71指標から偏差値を算出し、3分野の平均値を総合評価としたものである。

2 日本経済新聞社が平成20年9月に全国806市区を対象に実施。「行政サービス水準」と「行政革新度」の調査で構成。「サービス水準」は5分野のサービス毎に得点化したものである。

3 「戸田市におけるシティセールスの必要性と成功する要件について」戸田市政策研究所・戸田市まちづくり戦略会議 平成22年3月

○総合振興計画との関連



3. 計画期間

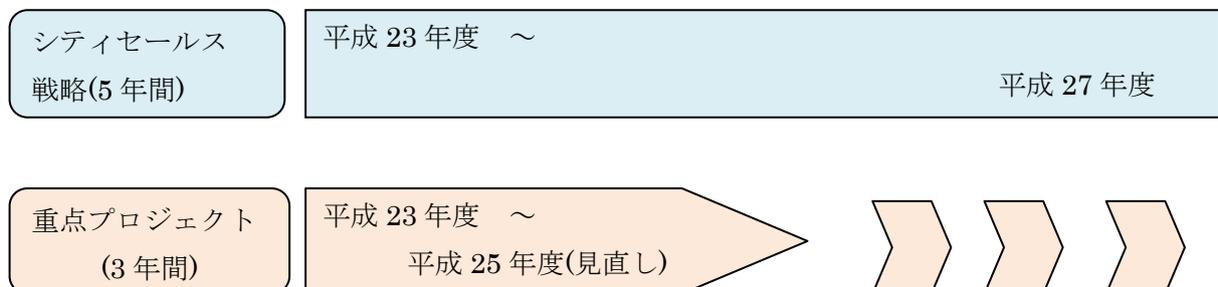
前項の位置づけを踏まえ、本戦略の計画期間を次のように設定します。

本戦略の計画期間は、第4次総合振興計画、前期基本計画に合わせ、平成23年度から27年度の5年間とします。

また、本戦略「Ⅲ. 2. 推進の目標」をより短期間で実現するにあたり、効果の高い取り組みを「重点プロジェクト」と位置づけ、集中的に取り組めます。

重点プロジェクトの計画期間は、平成23年度から25年度の3年間とします。

なお、3年経過時点で、進捗状況に合わせ、重点プロジェクトの見直しを行います。



4. 戸田市シティセールス戦略の概要

シティセールスを行う最終目的

人や企業を呼び込み、引き留めることにより、将来にわたりまちの活力を維持する
⇒その結果、持続的・安定的な都市経営が可能となり住民福祉が向上する

○シティセールス展開目標

戸田市が目指す都市イメージ

「首都に隣接 オアシス都市 憩う、育む、楽しむまち」

を実現する

戸田市第4次総合振興計画・分野別個別計画

戸田市の魅力向上



戸田市シティセールス戦略

推進の目標

認知度と都市イメージの向上

市民の誇り、愛着心の向上

2つの戦略

1. 様々なメディア、機会を活用した情報発信

- (1) 戸田市の広報メディアの効果的な活用
- (2) 新たなメディア、媒体の活用
- (3) イベントの機会を活用した情報発信
- (4) ターゲットエリアでのPR活動の展開

2. 発見！戸田市の魅力

- (1) シティセールス推進管理体制の確立
- (2) 多彩な人材を活用した情報発信の推進
- (3) 戸田市を知るための学習・体験機会等の提供
- (4) 強みや特性を活かした資源の磨き上げ
- (5) 戸田市の新たな魅力の開発

62のアクションプラン

4つの重点プロジェクト

- (1) 情報発信力強化
- (2) フィルムコミッション設立
- (3) 市のキャラクター選定・活用
- (4) 都市イメージ強化

Ⅱ. シティセールスをめぐる現状と課題

1. 戸田市の現状

(1) 位置

戸田市は、埼玉県の南東部に位置し東京都に隣接、東京都心から約 20 k m の距離にあります。面積は約 18k m²、市内は海拔約 1 ～ 4 m、市域全体が平坦な土地で、東は埼玉県川口市、西は埼玉県朝霞市と和光市、荒川を隔てて東京都板橋区と北区、北はさいたま市と蕨市に接しています。



関東圏内の位置



都心から 20 k m 圏に位置

(2) 交通

戸田市は、古より荒川の渡船場として栄えてきました。市内を南北に貫く旧中山道には、「戸田渡船場跡」があります。

現在、道路は、南北に首都高速道路 5 号線、国道 17 号が走り、東西に走る東京外かく環状道路、国道 298 号が、市内で交差しています。また、鉄道は JR 埼京線が南北に走っており、北戸田駅・戸田駅・戸田公園駅の 3 駅があります。都心へのアクセスは、JR で新宿副都心へ約 20 分、車で首都高速都心環状線へ約 30 分という、非常に利便性の高い位置にあります。

(3) 自然、地域資源

東京都境を流れる荒川堤内外には、豊かな緑が広がっています。年間約 100 万人の来場者がある「彩湖・道満グリーンパーク」や、「戸田ボートコース」のある戸田公園などを持つ、首都に隣接しながら、豊かな水と緑の空間に恵まれた都市です。

(4) 人口

戸田市は、昭和 41 年市制施行時の人口は約 5 万人でしたが、昭和 60 年の埼京線開通以降増加傾向にあり、現在は 12 万人を超えました。日本が人口減少社会を迎えた中で、現在も人口が増加しており今後も増加を続ける見込みです⁴。

⁴ 国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口(2008年12月推計)」

人口動態では転出入人口が年間約2万人であり、人口の入れ替わりが多く、社会増が続いています。また自然増加率は、全国・埼玉県平均を常に上回っています。しかし今後、高齢者増加率の予測が全国の自治体でも高位に入るなど、急激な高齢化が予想されています。

2. 戸田市の都市イメージ

シティセールスの方向を導くために、本市の認知度や、都市イメージなどの調査⁵を行いました。その結果、戸田市の現在の都市イメージは、次のようなものでした。

○認知度が低く、都市イメージの希薄なまち

都市の認知度調査において、全国的に戸田市の認知度は低い。

また、市民の戸田市に対するイメージ調査においては、「平凡なまち」が上位に位置するなど、強い明確な都市イメージを持たない都市である。

3. シティセールスをめぐる課題と対応

戸田市の現在の都市イメージを基に、シティセールスをめぐる課題と対応を、整理すると次のようになります。

(1) 明確な都市イメージがない ⇒ 目指す都市イメージを構築

戸田市は現在、認知度が低く、明確で強い都市イメージを持たれていない状況にあります。シティセールス活動を行うためには、統一された都市イメージが必要です。そこで、シティセールスを開始するにあたり、最初に、目指す良好な戸田市のイメージを構築し、次にそのイメージを市内外に伝えるという手順を進めることが望ましいと考えられます。

(2) 情報発信の不足 ⇒ 情報発信力の強化

戸田市は、高い都市ランキングの評価に表わされているように、行政サービスが充実し、都市の基礎力が高いといえます。しかし、それが市内外に有効に浸透しておらず、認知度や都市イメージの向上に結び付いていないと考えられます。そこで、効果的な情報発信を強力に進める必要があります。

(3) 個別資源の活用 ⇒ 資源や強みの活用と創出

戸田市は、「彩湖・道満グリーンパーク」や「戸田ボートコース」などに代表される水と緑の空間や、高い交通利便性など、多くの資源や強みを持っています。しかし低い認知度、不明確な都市イメージから考えると、その資源が有効に活用されていないといえます。そこで、シティセールス活動を通じて、戸田市が訴えるべき価値をあらためて

⁵ 「政策開発の手法と実践～自治体シンクタンク戸田市政策研究所の可能性」p179～194
東京法令出版 平成21年2月を参照

整理し、資源や強みを有効に活用する方策を進めるとともに、新たな資源の創造や発掘にも積極的に取り組む必要があります。

Ⅲ. シティセールス展開の基本方針

1. 基本的な考え方

都市のブランドには、都市が持つ統一的なイメージと、地産や観光等の個別ブランドがあります。シティセールスを開始するにあたり、この2つの関係を整理するとともに、前章で整理した課題と対応を踏まえ、戸田市のシティセールス展開の基本的な考え方を次のように設定しました。

まず、戸田市が進めるまちづくりと連動しながら、魅力的な「戸田市のイメージ」を創出し、市内外に積極的に発信することにより、戸田市への関心を高めます。このシティセールス活動を継続することで、次第に「戸田市らしさ=都市ブランド」が確立されます。この「都市ブランド=戸田市ブランド」が広く認知されることで、やがて本市の持つ個別ブランドに波及し、個別ブランドとの相乗効果により都市イメージがさらに高まるという、良い循環を創り出すことができます。また、活動を通じ戸田市に対する市民の誇りや愛着心が醸成されることにより、市民によるシティセールス活動へとつながっていくことが期待できます。

シティセールスの最終的な目的は、戸田市の価値を高めることで、戸田市に人や企業を呼び込むとともに、市内での持続的安定的な居住・立地を図ることで、将来にわたり戸田市の活力を維持し、持続的、安定的な都市経営による住民福祉の向上を目指すことにあります。

2. 推進の目標

基本的な考え方を踏まえ、戸田市のシティセールスの推進目標を、次の2つに設定しました。

- (1) 「認知度と都市イメージの向上」
- (2) 「市民の誇り、愛着心の向上」

3. 戸田市が目指す都市イメージ

平成 21 年度の戸田市まちづくり戦略会議・戸田市政策研究所の研究において、本市の持つ魅力・強み、資源などを分析し、本市が最も訴えるべき価値を抽出、そこから、戸田市が目指す都市イメージを設定しています。

目指す都市イメージ：「首都に隣接 オアシス都市 憩う、育む、楽しむまち」

シティセールス活動は、この都市イメージの実現に向けて行う、様々な取り組みと行うことができます。

4. 推進体制

シティセールスの推進にあたっては、行政だけでなく、地域を担う、様々な関係団体、企業、NPOなどと連携を図りながら進めることにより、高い成果が期待できます。

これらの様々な主体を巻き込みながら、本市のシティセールスを担う体制を構築していく必要があります。

IV. 推進戦略

1. ターゲット

シティセールスのターゲットについては、対象地域(ターゲットエリア)と対象者を明確にすることで、活動を集中し高い成果を上げることができます。

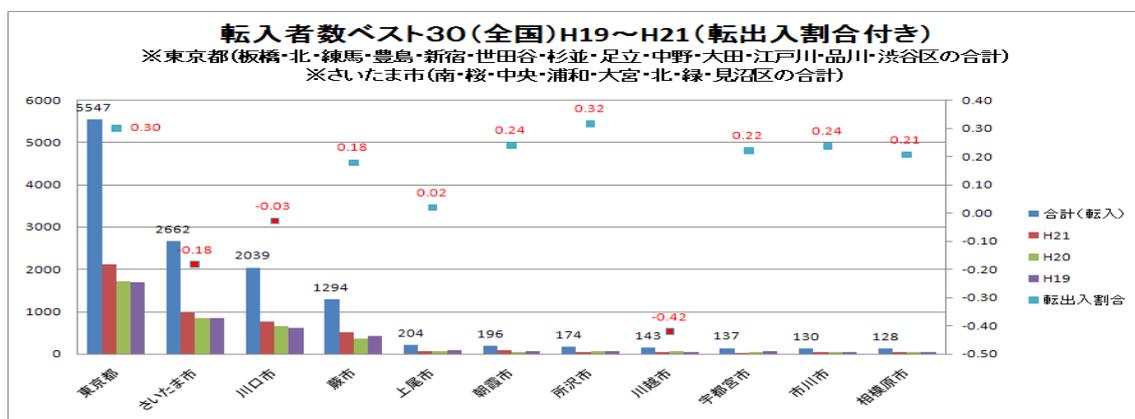
ターゲットの設定にあたっては、転出入者数⁶および転出入者への意識調査⁷を行い、本戦略策定にあたっての参考としています。

(1) 対象地域

対象地域(ターゲットエリア)については、平成19年度から21年度までの3年間の転入転出者数をもとに検討を行いました。

その結果、転入については、東京都(上位は、板橋区、北区、練馬区の順)からの転入者が多く、さいたま市、川口市、蕨市と続きます。しかし、転出入者数の割合からは、東京都については転入者が転出者を上回り、対して、さいたま市、川口市は転出者が転入者を上回っています。また、移動の範囲は隣接する市区が上位を占めています。

以上のことから、シティセールスを行う対象地域を、まず、隣接する市区で、かつ転入者が転出者を上回る市区～板橋区、北区と設定し、次に転入者が上位に位置する市区～さいたま市、川口市、蕨市を設定します。



出典：戸田市市民生活部市民課

(2) 対象者

対象者については、推進目標に沿って検討を行いました。まず、「認知度と都市イメージの向上」を図るために、市外については、本市に関心を持ち、訪れようとする、あるいは転入しようとする方が対象となります。特に、転入予備軍に対するアプローチが重

⁶ 平成19年度～平成21年度3年間の転入転出届け受付状況から、転入転出者数、転入転出地、転入転出割合を集計した。数値は住民基本台帳人口移動報告とは一致しない。

⁷ 戸田市への転入者および転出者に対して、平成22年10月に意識調査を実施した。詳細はV. 資料に記している。

要となります。

次に、推進目標「市民の誇り、愛着心の向上」を図るため、市民に向けたアプローチも重要となります。そこで、市民も対象とします。

また、シティセールスの最終的な目的、「将来にわたりまちの活力を維持し、持続的、安定的な都市経営による住民福祉の向上を図る」ために、とりわけ若い活力ある世代へのアプローチに力を入れます。

2. 2つの戦略

シティセールスの2つの推進目標、「認知度と都市イメージの向上」「市民の誇り、愛着心の向上」を達成するためには、戸田市の魅力を向上させることと併せ、効果的な情報発信により認知度を高め、戸田市を理解してもらうことが重要です。

そこで、シティセールスの推進に向け「様々なメディア、機会を活用した情報発信」と、「発見！戸田市の魅力」の2つの戦略を設定し取り組みます。

それぞれについて、具体的な取り組み=アクションプランを設けて進めます。

(1) 戦略1. 様々なメディア、機会を活用した情報発信

戸田市の持つ様々な魅力や資源の認知度を高めるため、市内外の方への戸田市の情報への接触度を増やすことが必要です。従来から行政の持っている広報メディアでの発信力強化と、パブリシティ活動(プレスリリースなど行政情報の提供)の強化を進めます。また、民間等との連携を前提とした新たなメディアの活用戦略を策定し、情報発信を進めます。

① 戸田市の広報メディアの効果的な活用

市が発行、作成する広報媒体をさらに充実させるとともに、シティセールスの視点を効果的に取り入れていきます。

② 新たなメディア、媒体の活用

今まで活用してこなかったメディアや媒体を積極的に活用します。また、新たなメディアの活用やパブリシティ活動の強化について、市の方向性を明らかにするための指針を策定します。

③ イベントの機会を活用した情報発信

市内で開催される様々なイベントの機会を活用し情報発信を進めます。それぞれのイベントの企画や、HP、パンフレットなどに、シティセールスの要素を取り入れていきます。

④ ターゲットエリアでのPR活動の展開

IV. 1. で設定したターゲットエリアを中心とし、様々な媒体を使ったシティセールス活動を展開します。

(2) 戦略2. 発見！戸田市の魅力

市民が戸田市の魅力を再発見し、戸田市への「誇り」や、「愛着心」が醸成されるよ

う、市民や企業、関連団体と連携しながら、既存の資源や魅力を更に磨きあげる取り組みを進めます。また、戸田市の持つ様々な強みを活かした新たな資源・魅力の創出を図ります。

① シティセールス推進管理体制の確立

シティセールスの推進にあたっては、進捗を管理しながら、シティセールスを取りまく状況変化に対応し、的確な対応をとることが重要です。そこで、行政、関連団体、企業、市民、学識経験者などで構成される連絡会議を設置し、推進管理体制を確立します。

② 多彩な人材を活用した情報発信の推進

シティセールスを市内外からサポートする、市民特派員、シティセールス大使、ふるさと市民などの制度導入について検討します。

③ 戸田市を知るための学習・体験機会等の提供

市民や戸田市に関心を持つ人に、戸田市のことをよく知ってもらい、住むことの誇りや愛着を持っていただくことは、シティセールスを進める上で重要です。そこで、市民等が参加しやすい学習や体験の機会を設けます。

④ 強みや特性を活かした資源の磨き上げ

戸田市の資源ともいえる、先進的、あるいは特徴があり高い評価を得ている取り組みや施設などを、さらに充実させることで資源そのものの磨き上げを図ります。また、これらについて積極的にPRします。

⑤ 戸田市の新たな魅力の開発

戸田市の魅力を更に高めるため、新たな取り組みを開始します。これらは、戸田市の新たな資源の創造や発掘につながります。

3. アクションプラン

それぞれの戦略毎に、次のように具体的な取り組み＝アクションプランを設定し、取り組んでいきます。

(1) 戦略1. 様々なメディア、機会を活用した情報発信

① 戸田市の広報メディアの効果的な活用

NO	アクションプラン名	所管課	実施年度
1	「広報戸田市」「ふれあい戸田」での情報発信強化	政策秘書室	平成23年度より
2	シティセールスブック(市勢要覧)の発行	政策秘書室	平成23年度発行 (市制施行45周年事業)
3	市のHPの積極的な活用	担当課、政策秘書室、情報統計課	平成23年度より

4	民間企業等と連携したPR活動の展開	担当課、経営企画課	平成23年度より
---	-------------------	-----------	----------

② 新たなメディア、媒体の活用

NO	アクションプラン名	所管課	実施年度
5	「戸田市広報戦略」の策定	政策秘書室	平成23年度策定
6	インターネットを利用した動画サイト等の活用	担当課、情報統計課	平成23年度より
7	携帯電話サイトの充実	担当課、情報統計課	平成23年度より
8	イベントカレンダーでの情報提供の充実	担当課、情報統計課	平成23年度より
9	フィルムコミッションの設立	政策秘書室、経済振興課	平成23年度設立

③ イベントの機会を活用した情報発信

(来場者 1,000人以上、主なイベントについて記載)

NO	イベント	所管課	来場者・参加者数	会場
10	戸田ふるさと祭り・青少年祭り	コミュニティ推進課、児童青少年課 (実行委員会)	約 80,000 人	ボートレース戸田
11	市民生活展、戸田農の秋祭り	防犯くらし交通課、経済振興課	約 4,000 人	市役所駐車場
12	環境フェア	環境クリーン室 (実行委員会)	約 30,000 人	市役所駐車場
13	戸田マラソン大会	文化スポーツ課	約 14,000 人	彩湖・道満グリーンパーク
14	レクリエーション大会	文化スポーツ課	約 2,300 人	スポーツセンター
15	各種ボート競技大会	文化スポーツ課 (各主催団体)	-	ボートコース

16	戸田音楽祭	文化スポーツ課 (文化協会)	約 7,000 人	文化会館等
17	戸田市文化祭、文化祭芸能フェスティバル	文化スポーツ課 (文化協会)	約 5,600 人	文化会館等
18	市民ミュージカル	文化スポーツ課 (文化体育振興事業団)	約 2,100 人	文化会館等
19	戸田市美術展覧会(市展)	文化スポーツ課 (実行委員会)	約 3,600 人	文化会館等
20	戸田橋花火大会	経済振興課	約 350,000 人	荒川河川敷
21	商工祭、商工会のイベント	経済振興課	約 35,000 人	市役所周辺
22	植木市	経済振興課	約 39,000 人	市役所周辺
23	イルミネーション	経済振興課、児童青少年課	-	北大通り、こどもの国、こどもの国周辺道路
24	地域福祉まつり	福祉総務課 (社会福祉協議会)	約 3,500 人	ボートレース戸田
25	老人スポーツ大会	長寿福祉課	約 1,000 人	スポーツセンター
26	プリムローズの大型イベント	児童青少年課 (指定管理者)	約 5,200 人	児童センター
27	こどもの国まつり	児童青少年課	約 3,600 人	こどもの国

④ターゲットエリアでのPR活動の展開

NO	アクションプラン名	所管課	実施年度
28	市外でのPR活動の強化	政策秘書室	平成23年度より

(2)戦略2. 発見！戸田市の魅力

①シティセールス推進管理体制の確立

NO	アクションプラン名	所管課	実施年度
29	(仮)シティセールス連絡会議の設置	まちづくり戦略会議 (政策秘書室)	平成24年度より

②多彩な人材を活用した情報発信の推進

NO	アクションプラン名	所管課	実施年度
30	シティセールスのサポート体制の整備	政策秘書室、経営 企画課	平成23年度より

③戸田市を知るための、学習・体験機会等の提供

NO	アクションプラン名	所管課	実施年度
31	企業見学などを取り入れた市内体験ツアーの開催	政策秘書室、経済 振興課	平成23年度より
32	ボートコースを使った一般向け体験イベント(市民ボート教室・市民大会)の開催	文化スポーツ課	平成23年度より
33	ウォーキング大会の開催	文化スポーツ課	平成23年度より
34	駅からハイキングの開催	経済振興課 (観光協会)	平成23年度より
35	各種講座による戸田市の魅力、資源の再発見	生涯学習課、講座 担当課	平成23年度より

④強みや特性を活かした資源の磨き上げ

NO	資源	所管課
36	ボートコースの池蝶貝真珠の活用	政策秘書室、経済 振興課
37	「いいとだスポット」の提供	担当課、情報統計 課
38	「いいとだマップ」での多彩な情報提供	担当課、情報統計 課
39	住民票等取得の利便性の向上	市民課

40	地域通貨戸田オール	コミュニティ推進課
41	積極的な市民活動の支援(ボランティア・市民活動支援センター、市民活動サポート補助金)	コミュニティ推進課
42	活発な防犯パトロール	防犯くらし交通課
43	環境問題への先進的な取り組み	環境クリーン室
44	ランニングとウォーキングのまち	文化スポーツ課
45	戸田音楽祭	文化スポーツ課
46	戸田市美術展覧会	文化スポーツ課
47	名産品創出事業	経済振興課
48	起業支援センター	経済振興課
49	ビジネスインフォメーションセンターTBIC	経済振興課
50	観光マップ、観光絵葉書の作成	経済振興課
51	優良推奨品認証制度	経済振興課
52	工業見える化事業	経済振興課
53	充実した子育て支援	こども家庭課、保育幼稚園課、児童青少年課
54	戸田市の景観	都市計画課

55	水と緑と花のまちづくり	都市計画課、公園 緑地課、河川課
56	彩湖道満グリーンパーク、彩湖自然学習センター	公園緑地課、図書 館・郷土博物館
57	土地区画整理事業による高水準な基盤整備率	土地区画整理事務 所
58	予防医療の充実	福祉保健センター

⑤戸田市の新たな魅力の開発

NO	アクションプラン名	所管課	実施年度
59	戸田市のキャラクターの選定と活用	経営企画課	平成23年度選定 平成24年度活動開始
60	ふるさと祭り・青少年祭りでの新たなイベント創出	コミュニティ推進 課、児童青少年 課、生涯学習課	平成24年度より
61	彩湖道満グリーンパークを活用した新たなイベントの開催	担当課、経済振興 課(観光協会)、公 園緑地課(公園緑 地公社)	平成24年度より
62	サテライト大学の設置	生涯学習課	平成25年度設置

4. 重点プロジェクト

アクションプランのうち、シティセールスを展開する上で、短期間で高い効果が期待できる取り組みを抽出し、重点プロジェクトとして推進します。

これらを平成23年度から3年間で集中的に進めることで、より高い成果を求めます。これら4つの取り組みは、シティセールス全体を牽引するリーディング事業の役割も果たします。

(1) 情報発信力強化プロジェクト

- ・「戸田市広報戦略」を策定し、多様な主体の、様々な媒体を利用した広報活動の方向性を示し、戸田市の情報発信力強化を図ります。

⇒平成 23 年度策定(政策秘書室)

(2) フィルムコミッション設立プロジェクト

- ・都心に近い地の利を生かし、フィルムコミッションを設立します。戸田市の認知度向上や、市民の愛着心の醸成を目指し、活動を開始します。

⇒平成 23 年度設立(経済振興課、政策秘書室)

(3) 市のキャラクター選定・活用プロジェクト

- ・統一した市のキャラクターを選定し、シティセールスに活用します。

⇒平成 23 年度選定、24 年度活動開始(経営企画課)

(4) 都市イメージ強化プロジェクト

目指す都市イメージを作り上げるための、基礎となる取り組みに力を入れます。また、これらについては、特に強力に情報を発信していきます。

- ・水と緑と花のまちづくり

三軒協定、水と緑のネットワーク形成プロジェクト、華かいどう 21、ワークショップ方式での公園整備、清流ルネッサンスⅡ(都市計画課、公園緑地課、河川課)

- ・先進的な環境の取り組み

花苗と生ごみの交換、フェルトガーデン戸田、緑のカーテン、電気自動車購入補助、公共施設への電気自動車用充電設備設置、生ごみ堆肥を姉妹都市に供給、花ロード美女木(環境クリーン室)

- ・彩湖道満グリーンパークを活用した新たなイベントの開催(担当課、公園緑地課、経済振興課)

- ・ボートコースを使った一般向け体験イベント(市民ボート教室・市民大会)の開催(文化スポーツ課)

V. 資料

1. 戸田市人口移動実態調査 分析結果

本調査の概要

I. 調査の目的

本調査の目的は、戸田市へ転入した市民、戸田市から転出した市民の意識を調査することで、戸田市が現在抱える問題や課題を洗い出し、それを把握して、政策研究の基礎資料を収集することである。

II. 調査の方法と実施時期

調査の方法は、次項の「戸田市人口移動実態調査票 転出用／転入用」を用いた郵送調査法にもとづく標本調査である。調査票の郵送は平成 22 年 10 月 4 日に実施し、平成 22 年 11 月 1 日に回収を締め切った。さらに、その 1 週間前である 10 月 25 日には、調査対象者に「督促はがき」の送付を行った。

III. 調査対象と標本数の算定

本調査の調査対象は、平成 21 年度に戸田市へ転入した市民（18 歳以上）から無作為抽出した 900 名と、同年度に戸田市から転出した市民（18 歳以上）から無作為抽出した 900 名の計 1,800 名に調査票を送付した。これらを抽出する際には、平成 22 年 6 月 1 日の住民基本台帳データを利用した。

標本数については、下記の「有限母集団における標本数の決定」および回収率を参照しながら算定した。標本数算定の前提条件として、平成 21 年度における戸田市への転入者は 10,494 名であり、同年度の戸田市からの転出者は 8,960 名である。

■有限母集団における標本数の決定方法

$$n = \frac{N}{\left(\frac{e}{k}\right)^2 \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

N : 母集団の大きさ

e : 要求精度⁸

P : 母比率⁹

k : 係数¹⁰

n : 標本数

回収率: 45%

信頼度 95%、標本誤差を 5%とした場合、転入者 10,494 名、転出者 8,960 名に対するそれぞれの標本数は、下記のように転入者の場合が 371、転出者の場合が 368 となった。

⁸ 通常、標本比率につける誤差の幅は 0.05 である。

⁹ 予測できない場合は、通常、50% (0.5) である。

¹⁰ 「信頼度 (a) =95%」に対応する標準正規分布であり、1.96 となる。

■ 転入者の標本数の算定

$$\frac{10,494}{\left(\frac{0.05}{1.96}\right)^2 \frac{(10,494-1)}{50(100-50)} + 1} = 370.62$$

≒ 371 (標本)

■ 転出者の標本数の算定

$$\frac{8,960}{\left(\frac{0.05}{1.96}\right)^2 \frac{(8,960-1)}{50(100-50)} + 1} = 368.40$$

≒ 368 (標本)

ただし、この標本数は回収率によって左右されるため、理論的な回収率を45%と設定し、標本数は、転入者が824、転出者が819と算定された。本調査では、より多くの調査票を回収するために、それらの算定値よりも多い900票を標本数として、転出者、転入者それぞれに郵送した。

IV. 調査票の回収状況

上述のように、本調査の調査対象は転出者、転入者それぞれ900名の計1,800名である。調査票は転出者から352票(回収率39.1%)、転入者から412票(回収率45.8%)をそれぞれ回収することができた。調査票の回答状況としては、A3版裏表1枚の調査票で、全設問無回答といった「白紙」での回答は見られず、回収されたすべての調査票を有効票として分析対象とした。

V. 調査票の内容

先に述べたように、調査票は転出用と転入用があり、その設問内容は以下のようになっている。

転出用	転入用
I. 転出者の現住所と前住所	I. 転入者の現住所と前住所
II. 移動前後の世帯構成等について	II. 移動前後の世帯構成等について
III. 移動の原因となった方について	III. 移動の原因となった方について
IV. 移動の理由について	IV. 移動の理由について
V. 居住地選択の理由について	V. 居住地選択の候補地について
VI. 現在お住まいの市区町村への定住意向について	VI. 居住地選択の理由について
VII. 戸田市への帰還意向等について	VII. 戸田市への定住意向について
VIII. 移動前後の住宅の所有関係等について	VIII. 移動前後の住宅の所有関係等について

本調査の結果と考察（転出者）

調査結果の要旨

- ・ 戸田市からの転出者について、圧倒的に多かったのが「埼玉県」で、全体の 37.5%を占め、次いで、「東京都」が 18.5%であり、これらで全体の 56.0%を占める。
- ・ さらに、埼玉県への転出者では、「さいたま市」への転出者が最多で、県内における転出先全体の 42.4%を占め、次いで、「川口市」、「蕨市」と続く。いずれも戸田市に隣接する市への転出が顕著である。同様に東京都では「板橋区」と「北区」、「練馬区」と続き、これらで全体の 35.4%を占める。
- ・ 戸田市からの転出者の前住所について、最も多かったのが、「大字新曽」の 16.5%であり、次いで、「本町」と「上戸田」が 11.9%と続く。
- ・ 転出時の世帯構成について、「二世帯同居」が最多であり、全体の 38.1%を占める。次いで、「ひとり世帯」が 32.1%、「夫婦のみ」が 19.3%である。一方、転出後の世帯構成についても、「二世帯同居」が最多であり、全体の 35.5%を占め、次いで、「夫婦のみ」が 25.0%、「ひとり世帯」が 24.1%となっている。票数では戸田市からの転出後に「夫婦のみ」の回答が 20 票増加している。
- ・ 転出の原因となった方について、全体の 7 割以上が「世帯主」であり、転出の原因となった方の性別についても、67.6%が「男性」である。
- ・ 転出の原因となった方の年齢について、最多が「25～29 歳」で、全体の 20.7%を占め、それに次いで「30～34 歳」と「35～39 歳」の両方が 17.3%と続く。これら 25～39 歳まで年齢が全体の 55.4%を占める。
- ・ 転出の原因となった方の職業について、最も多かったのが「事務・技術職」であり、全体の 35.5%を占める。
- ・ 転出者の現在の通勤・通学場所について、「東京都」が全体の 33.9%を占め、次いで、「埼玉県」が 20.1%であった。
- ・ その内訳として、東京都では、「渋谷区」の 12.9%が最多であり、次いで、「港区」が 11.8%、「新宿区」が 10.8%であった。また、東京 23 区への通勤・通学はあわせて 91.4%にのぼった。埼玉県では、「さいたま市」が最多で、34.5%を占め、次いで、「戸田市」が 21.8%であった。「さいたま市」と「戸田市」で全体の 5 割以上を占めている。
- ・ 戸田市での居住期間について、「1～3 年未満」が最多で、全体の 28.1%を占める。それに次いで、「1 年未満」と「3～5 年未満」が、どちらも 15.3%であり、5 年未満までの比較的短い居住期間が全体の約 6 割を占める。
- ・ 転出のきっかけとなった理由については、「転勤」が最多で、全体の 19.9%を占め、次いで、「住宅事情」が 18.2%、「結婚」が 11.4%と続く。これらで全体の 5 割近くを占める。
- ・ 現住所を選んだ理由について、最も多かったのが「通勤・通学が便利」であり、全体の 33.5%を占めた。次いで、「予め住居が用意」が 14.5%であり、「親等親族の居住

地から近い」が13.6%と続く。これらで全体の6割以上を占める。居住地を選ぶ際には、通勤や通学に便利な場所を選択することが改めて確認された。

- ・ 現住所への定住意向について、「できれば住み続けたい」が29.0%、「ぜひ住み続けたい」が24.7%を占め、現住所に住み続けたいという回答が全体の5割以上となった。
- ・ その一方で、戸田市への帰還意向について、全体の47.4%が「どちらかといえば戻りたい」であり、「ぜひ戻りたい」も13.6%であり、全体の6割以上が戸田市への帰還意向を持っていることが明らかになった。
- ・ 戸田市への帰還意向の理由について、最多は「通勤・通学が便利」であり、全体の20.0%を占める。次に「日常生活が便利」が18.6%、「広域公共交通の高利便性」が12.6%で、これらで5割強となり、これらの回答から、戸田市は通勤・通学や日常的な買い物が便利であるということが明らかになった。
- ・ 戸田市への帰還意向がない理由について、「通勤・通学が便利」が16.3%であり、「その他」が14.7%、「親族の居住地から近い」が11.6%、「予め住居が用意」が10.1%と続いた。やはり通勤・通学の便利さを挙げる回答が多く、転居の際には、その家族の通勤・通学の利便性を非常に重視するということが判断できる。
- ・ 転出前の住宅の所有関係について、「民間の借家（アパート等）」が最多の56.8%を占め、次に「給与住宅」が16.2%と続く。さらに、転出後の住宅の所有関係についても、「民間の借家（アパート等）」40.1%で最多であり、次いで、「持家（一戸建）」が26.4%、「給与住宅」が11.1%、「持家（分譲マンション）」が10.5%と続く。
- ・ 転出前後の住宅の所有関係において、いずれも最も多かったのが「民間の借家（アパート等）」だったが、それは転出後に50票以上減少した。その一方で、転出前には28票しかなかった「持家（一戸建）」の回答が、転出後には3倍以上に増加しており、戸田市からの転出後に「借家」から「持家」に住み替える動きがあることがうかがえる。
- ・ 転出前の住宅の床面積について、最も多かったのが「40～60㎡未満」であり、全体の26.4%を占める。次いで、「60～80㎡未満」が23.3%、「20～40㎡未満」が22.2%と続く。これらが全体の7割強を占める。
- ・ 一方、転出後の住宅の床面積については、「40～60㎡未満」が最多であり、全体の21.9%を占める。次いで、「60～80㎡未満」が19.6%であり、「20～40㎡未満」が16.5%と続く。
- ・ 転出前後の住宅の床面積について、上位3の順位は同じである。ただし、4位以降は転出前後では異なる。4位の「100～120㎡未満」は5票から37票に激増し、5位の「80～100㎡未満」は26票から35票へ増加している。また、「160㎡以上」も5票から19票に増加している。一方、「20㎡未満」は35票から18票に減少している。
- ・ これらから戸田市からの転出後に住宅の床面積が増加することが指摘できる。また、このような結果は、上述の住宅の所有関係でも示された、借家から持ち家への住み替えの動きとも関連しよう。

本調査の結果と考察（転入者）

調査結果の要旨

- ・ 転入者の現住所について、「大字新曽」が最多で、全体の14.8%を占める。次いで、「上戸田」が10.7%、「本町」が9.0%と続く。
- ・ 転入者の前住所について、他を圧倒して多かったのが「埼玉県」の33.3%、「東京都」の31.3%であり、これらで全体の6割強を占める。
- ・ その内訳は、埼玉県では、「さいたま市」が最多で全体の32.8%を占め、次いで、「川口市」が22.6%、「蕨市」が10.2%と続く。戸田市に隣接する市からの転入が全体の6割以上を占める。同様に東京都では、「北区」が17.1%、「板橋区」が16.3%となっており、全体の約3分の1を占めている。
- ・ 転入前の世帯構成については、「二世帯同居」が38.8%であり、次いで、「ひとり世帯」が27.4%、「夫婦のみ」が22.8%と続く。転入後の世帯構成については、「二世帯同居」が33.7%であり、次いで、「夫婦のみ」が30.8%、「ひとり世帯」が27.4%と続く。
- ・ 転入前後で、「二世帯同居」が160票から139票へ、「三世帯同居」が26票から10票へと減少している。一方、「夫婦のみ」の回答が30票以上増加している。
- ・ 戸田市への転入の原因となった方については、「世帯主」が圧倒的に多く、全体の69.9%を占める。さらに、その性別については、「男性」が最多で全体の68.4%を占めた。
- ・ 転入の原因となった方の転入時の年齢について、最多が「30～34歳」であり、全体の19.2%を占める。次いで、「25～29歳」が17.5%であり、さらに「35～39歳」が13.6%と続く。これら25～39歳までの年齢の回答が全体の5割強を占めている。
- ・ 転入の原因となった方の職業について、「事務・技術職」が最多で、全体の33.3%を占める。次に、「販売・生産・労働職」が15.8%、「サービス業従事者」が10.0%と続く。
- ・ 現在の通勤・通学場所について、最多が、「東京都」で、全体の62.3%を占める。次いで、「埼玉県」が全体の29.9%を占め、これらで全体の9割以上を占めている。
- ・ その内訳として、東京都で最も多い通勤・通学先は「千代田区」で、全体の14.6%を占め、次いで、「港区」が11.6%、「渋谷区」が10.6%と続く。これらで全体の3分の1以上を占める。
- ・ 同様に、埼玉県で最多は「戸田市」であり、全体の40.0%を占める。次いで、「川口市」と「さいたま市」がどちらも18.9%である。戸田市内や隣接する川口市、さいたま市で、全体の7割強を占める。
- ・ 転入者の戸田市での居住歴について、「初めて」が全体の84.5%を占めている。
- ・ 戸田市で居住歴がある転入者の居住期間については、「1～3年未満」が最多で、全体の26.3%を占める。次いで、「10～20年未満」が19.3%であり、「5～10年未満」が17.5%と続く。
- ・ 戸田市からの転出可能性について、「いいえ」が全体の53.9%を占める一方で、「はい」も43.0%を占める。

- ・ 転入のきっかけとなった理由については、「住宅事情」が最多であり、全体の 22.8%を占める。それに次いで、「転勤」と「結婚」が、どちらも 15.0%を占めている。
- ・ 転入者が現住所以外の他地域を居住候補地として探索したかについては、「探した」が 55.3%である一方で、「探さない」が 44.7%となっている。
- ・ 戸田市外における居住候補地について、最多が「川口市」で全体の 22.8%を占める。次に、「その他」が 20.2%であり、「東京都板橋区」が 13.2%、「さいたま市南区」が 10.5%と続く。
- ・ 戸田市内における居住候補地について、最も多いのが「市内では探さず」であり、全体の 30.3%を占める。次いで、「戸田公園」が 20.6%となっている。
- ・ 戸田市を選択した理由について、圧倒的に多いのが「通勤・通学が便利」であり、全体の 45.6%を占める。それに次いで、「予め住居が用意」が 13.1%、「親族の居住地から近い」が 7.3%と続く。居住地を選択する際には、通勤・通学の利便性に重きを置くことが、改めて確認することができる。
- ・ 戸田市内の現住所を選択した理由について、最も多いのが「取得価格、家賃が適当」であり、全体の 27.4%を占める。それに次いで、「職場や学校に近い」が 16.3%、「公共交通の利便性」の 15.8%、「予め住居が用意」が 14.8%と続く。転入者が戸田市内の現住所を選ぶ際には、その価格や家賃を重視していることが把握できる。
- ・ 戸田市への定住意向について、最多の「できれば戸田市に住み続けたい」という回答が、全体の 37.4%を占める。また、「ぜひ戸田市に住み続けたい」が 21.4%であり、それらを加えると、全体の 6割近くが、戸田市に住み続けることに積極的である。
- ・ 転入前の住宅の所有関係について、圧倒的に多いのが「民間の借家（賃貸マンション等）」であり、全体の 49.0%を占める。それに次いで、「持家（一戸建）」が 19.4%、「給与住宅（社宅・官舎等）」が 11.2%と続く。
- ・ 一方、転入後の住宅の所有関係について、ここでも多いのが「民間の借家（賃貸マンション等）」なのだが、183票に減少しており、割合も全体の 44.4%となっている。「持家（一戸建）」は 17票（4.1%）だが、転入前は 80票であり、急減している。その一方で、回答が増加したのが「持家（分譲マンション）」であり、転入前の 4倍以上である 102票であり、全体の 24.8%）を占めている。
- ・ 転入前の住宅の床面積について、最も多いのが「40～60㎡未満」で全体の 25.7%を占める。次いで、「20～40㎡未満」が 18.4%であり、「60～80㎡未満」が 16.5%、「80～100㎡未満」が 7.8%と続く。
- ・ 一方、転入後の住宅の床面積について、最も多いのが「60～80㎡未満」であり、転入前よりも約 50票増加している。次いで、「40～60㎡未満」が 23.5%であり、「20～40㎡未満」が 17.2%と続く。
- ・ 100㎡以上の床面積については軒並み減少しており、「160㎡以上」が 21票から 4票、「140～160㎡未満」が 14票から 4票、「120～140㎡未満」が 10票から 2票となっている。

クロス集計の結果と考察（転出者）

集計結果の要旨

- ・ 年齢・居住期間クロスでは、「1～3年未満」は、「25～29歳」が31票で最多で、「30～34歳」が20票、「35～39歳」が19票と続く。さらに、居住期間が「1年未満」に着目すると、「20～24歳」の15票が最多である。これらから、20～30代の世代は、男性を中心として比較的短い期間、戸田市に住み、他所に転出していくことが分かる。
- ・ そのような転出の理由については、「25～29歳」では、「住宅事情」と「結婚」がともに15票で最多で、「転勤」が13票と続く。とりわけ「結婚」に関しては、女性が7票と、男性に迫っている。年齢階層の総計で次に多いのは、「30～34歳」であり、「結婚」が13票、「転勤」が12票と続いた。特に「結婚」に関しては、女性は7票で男性よりも多い。
- ・ 転出先の最多は「埼玉県」であり、その理由として「住宅事情」が最多の47票であり、「結婚」の20票（うち女性が13票）が、それに続いた。一方、総計が第2位である「東京都」の場合は、「結婚」が12票で最多であったものの、「通勤通学の利便性」が10票で続いた。
- ・ 転出先である現住所での定住意向について、転出先の最多である「埼玉県」では、「できれば住み続けたい」が47票、「ぜひ住み続けたい」が32票であり、定住意向が高いことが示された。ただ、「わからない」という回答も31票あり、定住に関する迷いや不安定さがうかがえる。
- ・ 戸田市への帰還意向について、「埼玉県」では、「どちらかといえば戻りたい」が57票であり、「ぜひ戻りたい」が23票で、戸田市への強い帰還意向が表れていることが判明した。
- ・ 戸田市への帰還意向について埼玉県内の都市に着目すると、「さいたま市」は、「どちらかといえば戻りたい」が23票、「ぜひ戻りたい」が8票と他都市よりも、戸田市へ帰還意向が強く表れている。その一方で、「戻りたくない」が12票、「どちらかといえば戻りたくない」が9票と戸田市への帰還意向が消極的であることも判明した。「さいたま市」に関しては、戸田市への帰還意向と非帰還意向が併存している状況が示されている。
- ・ 転出前後の住宅について、転出後は「民間借家（アパート等）」の総数が136票となり、転出前より60票以上も減少している。一方、増加しているのが「持家（一戸建）」であり、総計が92票となっている。とりわけ、「100～120㎡未満」が31票となっているほか、「160㎡以上」が17票、「80～100㎡未満」が13票となっている。「持家（一戸建）」について、転出前は「25～29歳」と「35～39歳」で、5票ずつしかなかったものが、転出後は、どちらも17票となっており、総数で91票となっている。これらの点から、「民間借家（アパート等）」から「持家（一戸建）」への住み替えが、25～39歳の年齢階層を中心に、それ以上の年齢階層も含めて起きていることが把握できる。

クロス集計の結果と考察（転入者）

集計結果の要旨

- ・ 現住所と居住地選択理由については、「通勤・通学が便利」の総計が 178 票で、他を大きく引き離していることがわかる。単純集計の分析でも、「通勤・通学が便利」という回答が多かったものの、それを改めて裏付ける結果となっている。
- ・ 現在の住所地を選んだ理由について、最も多かったのは「取得価格、家賃が適当」という回答であった。居住地を選択する際には、通勤・通学のアクセスが便利という点、あるいは、通勤先・通学先そのものが近いという点、そして、住居の購入価格や賃料が適切である点ということが重視されていることが改めて確認された。このようなアクセシビリティの高さや住宅価格・賃料の適切性といったハードな部分の良さが戸田市の強みの一つといえる。
- ・ 戸田市への定住意向については、「ぜひ戸田市に住みたい」という回答は、「35～39 歳」が 16 票、「30～34 歳」が 15 票、「25～29 歳」が 13 票となっている。その一方で、「20～24 歳」では、その回答が 2 票のみとなっている。20 代前半の若者よりも、20 代後半から 30 代後半の年齢階層に定住意向があると考えられる。
- ・ 転入前の住居で最も多いのは、「民間借家（アパート等）」であり、床面積は「40～60 m²未満」が 73 票、「20～40 m²未満」が 60 票である。ついで、「持家（一戸建）」が総計で 72 票となっている。この「持家（一戸建）」の床面積は「160 m²以上」と「100～120 m²未満」が 15 票ずつで最多である。
- ・ 「持家（一戸建）」に住まう年齢階層について、「20～24 歳」と「25～29 歳」がいずれも 15 票で最多であった。だが、20 代で戸建の持家を得ることは容易ではない。ここは一般的に考えて、いわゆる、「実家暮らし」をしており、「就職」や「結婚」、「転職」などのイベントで実家を離れ、戸田市で新たに住まうと考える方が自然であろう。その際に、戸田市における住まいとなるのが、表 36 にある「民間借家（アパート等）」であろう。「25～29 歳」では 42 票であり、最多である。
- ・ また、さらに上の年齢階層で、「持家（分譲マンション）」への住み替えが進み、「30～34 歳」が 27 票、「35～39 歳」が 14 票と最もボリュームのある年齢階層となる。
- ・ 以上をまとめると、20 代前半から半ば頃の年齢階層の社会集団が、戸田市に近接する埼玉県各都市（さいたま市、川口市、蕨市など）や東京都（北区、板橋区、練馬区など）から転入してくる。その際、多くは実家暮らしであり、埼玉県内の場合は特に「持家（一戸建）」の場合が多い。その際の戸田市での住まいは、主に「民間借家（アパート等）」である。その後、5 年までの間でまた近接都県に転出する者もいて、他所で「持家（一戸建）」を購入する。あるいは、戸田市の生活が長くなるものは「持家（分譲マンション）」を市内に購入し、住まうということになる。

2. 戸田市人口移動実態調査 調査票

(1) 転入者

戸田市人口移動実態調査 ご協力をお願い

日ごろから市政へのご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。
戸田市政策研究所は、戸田市の市政運営について、調査研究を行うことを目的に設置されている機関です。

さて、本研究所では、今後の市政運営に生かすため、転入者の方々への意識調査を実施しております。

この調査は平成21年度中に戸田市へ転入された方のうち、平成22年9月1日現在において、戸田市の住民基本台帳および外国人登録原票に登録されている18歳以上の市民の皆様から900人の方を無作為に選んでお願いしております。ご多用のところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ぜひこのアンケートにお答えくださいますよう、お願いいたします。

なお、このアンケートに関して個人の意見が公表されることは一切ありませんので、ぜひ率直なご意見をいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

平成22年10月

戸田市政策研究所長 山田 一彦

◆ご記入の前に◆

1. 回答のしかた

- ・この調査票は、封筒宛名のご本人がご記入ください。
- ・質問は全部で17問です。各質問の説明に従って、回答欄にご記入ください。筆記用具の種類は問いません。

2. 返送のしかた

回答が済みましたら、同封の返信用封筒にて、切手を貼らずに11月1日(月)までに投函してください。封筒や調査票にご住所・お名前を記入する必要はありません。

3. お問い合わせ

〒335-8588 戸田市上戸田1-18-1 戸田市役所
戸田市政策研究所
電話 048-441-1800 (内線470)
FAX 048-431-6790
E-mail seisaku@city.toda.saitama.jp

なお、この調査結果につきましては、戸田市ホームページ等で概要を公表する予定です。

V 居住地選択の理由について		【回答欄】
問 5-1 戸田市に居住地を決めた理由をお尋ねします。 次の項目(1~20)から2つ選び、当てはまる番号を優先順位の高いものから回答欄に記入して下さい。		第1理由 <input type="text"/> 第2理由 <input type="text"/>
1. 通勤・通学が便利であるから 2. 買い物等日常生活が便利だから 3. 道路事情がよいから 4. 広域的な公共交通の利便性が高いから 5. 市内公共交通の利便性が高いから 6. 良好な住環境が整備されているから 7. 子育て環境が充実しているから 8. 高等教育機関が充実しているから 9. 治安がよいから 10. 医療・福祉が充実しているから 11. 自然災害が少ないから 12. 公園や自然環境が豊かであるから 13. スポーツをする場が豊富であるから 14. 文化施設が充実しているから 15. 中心市街地に活気があるから 16. 就業の場が豊富であるから 17. 生まれ育ったところだから 18. 親等親族の居住地から近いから 19. あらかじめ住居が用意されていたから 20. その他 ()		
問 5-2 戸田市の中で、現在お住まいの住所地(町丁目)に決めた理由をお尋ねします。 次の項目(1~23)から2つ選び、当てはまる番号を優先順位の高いものから回答欄に記入して下さい。		第1理由 <input type="text"/> 第2理由 <input type="text"/>
① 日常生活の利便性	1. 職場や学校に近いから 2. 公共交通の利便性が高いから 3. 幹線道路や高速道路へのアクセスがよいから 4. 商店や金融機関が近くにあり、買い物等日常生活が便利だから	
② 住宅事情	5. 取得価格、家賃が適当であったから 6. 日照等立地条件がよいから 7. 広さが適当であったから 8. 防火設備や耐震強度が十分であったから	
③ 養育・教育環境	9. 幼稚園、保育所等が近くにあるから 10. 通学区域となる小学校・中学校の教育環境がよいから	
④ 医療・福祉・防災	11. 医療機関、福祉施設が近くにあるから 12. 学校施設等災害や緊急時への避難場所が近くにあるから	
⑤ 景観・自然環境	13. 公園などが近くにあるから 14. 山や川・里山等身近に自然があるから 15. 周辺の街並み、景観がよいから	
⑥ 余暇活動・趣味	16. 健康・スポーツ施設が近くにあるから 17. 美術館等文化施設が近くにあるから 18. 娯楽施設が近くにあるから	
⑦ その他	19. あらかじめ住居が用意されていたから(社宅・寮・家族の元へ同居等) 20. 近隣住民のコミュニケーションが良好であるから 21. 生まれ育ったところだから 22. 特に理由はない 23. その他 ()	
VI 戸田市への定住意向について		【回答欄】
問 6-1 今後も戸田市に住み続けたいと思いますか。当てはまる番号を回答欄に記入してください。		<input type="text"/>
1. ぜひ戸田市に住み続けたい 2. できれば戸田市に住み続けたい 3. できれば他の市区町村に移りたい 4. ぜひ他の市区町村に移りたい 5. わからない		
VII 移動前後の住宅の所有関係等について		【回答欄】
問 7-1 住宅の所有関係についてお尋ねします。当てはまる番号を回答欄に記入して下さい。		移動前 <input type="text"/> 移動後 <input type="text"/>
1. 持家(一戸建) 2. 持家(分譲マンション) 3. 公営住宅(公団・公社・市県営住宅等) 4. 民間の借家(アパート・賃貸マンション等) 5. 民間の借家(アパート・賃貸マンション等) 6. 給与住宅(社宅・官舎・家族寮・独身寮等) 7. 学生寮 8. 間借り・下宿 9. 施設(病院・福祉施設等) 10. 親戚の家 11. その他 ()		
問 7-2 住宅の床面積についてお尋ねします。当てはまる番号を回答欄に記入して下さい。		移動前 <input type="text"/> 移動後 <input type="text"/>
1. 20㎡未満 2. 20~40㎡未満 3. 40~60㎡未満 4. 60~80㎡未満 5. 80~100㎡未満 6. 100~120㎡未満 7. 120~140㎡未満 8. 140~160㎡未満 9. 160㎡以上 ※居室の床面積のほか、玄関・台所・トイレ・浴室・廊下・押入れ等を含めてください。但し、営業用の部分及び他の世帯が使っている部分は除いてください。 ※床面積は1坪(2畳)を3.3㎡に換算してください。		
ご協力頂き、ありがとうございました。		

(2) 転出者

戸田市人口移動実態調査 ご協力のお願い

日ごろから市政へのご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。
戸田市政策研究所は、戸田市の市政運営について、調査研究を行うことを目的に設置されている機関です。

さて、本研究所では、今後の市政運営に生かすため、転出者の方々への意識調査を実施しております。

この調査は平成21年度中に戸田市から転出された方のうち、18歳以上の方から900人の方を無作為に選んでお願いしております。ご多用のところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ぜひこのアンケートにお答えくださいますよう、お願いいたします。

なお、このアンケートに関して個人の意見が公表されることは一切ありませんので、ぜひ率直なご意見をいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

平成22年10月

戸田市政策研究所長 山田 一彦

◆ご記入の前に◆

1. 回答のしかた

- ・この調査票は、封筒宛名のご本人がご記入ください。
- ・質問は全部で17問です。各質問の説明に従って、回答欄にご記入ください。筆記用具の種類は問いません。

2. 返送のしかた

回答が済みましたら、同封の返信用封筒にて、切手を貼らずに11月1日(月)までに投函してください。封筒や調査票にご住所・お名前を記入する必要はありません。

3. お問い合わせ

〒335-8588 戸田市上戸田1-18-1 戸田市役所
戸田市政策研究所
電話 048-441-1800 (内線470)
FAX 048-431-6790
E-mail seisaku@city.toda.saitama.jp

なお、この調査結果につきましては、戸田市ホームページ等で概要を公表する予定です。

戸田市人口移動実態調査票 転出用

現住所	都道府県	市区町村	町丁目
前住所	戸田市		丁目

次の質問について、あてはまる番号を回答欄に記入して下さい。

I 移動前後の世帯構成等について 【回答欄】

問 1-1 移動前後の世帯の構成についてお尋ねします。	【移動前】 1. ひとり世帯 2. 夫婦のみ 3. 二世帯同居 (親と子ども) 4. 三世帯同居 (祖父母と親と子ども) 5. その他 【移動後】 1. ひとり世帯 2. 夫婦のみ 3. 二世帯同居 (親と子ども) 4. 三世帯同居 (祖父母と親と子ども) 5. その他	
-----------------------------	--	--

II 移動の原因となった方について 【回答欄】

問 2-1 今回移動された方のうち、移動の最も大きな原因となった方はどなたですか。	1. 世帯主 2. 世帯主の親 3. 世帯主の子ども 4. 世帯主の配偶者 5. その他 ()	
以降の質問は問 2-1 で答えられた方 (移動の最も大きな原因となった方) についてお尋ねします。		
問 2-2 問 2-1 で移動の最も大きな原因となった方の移動時の年齢についてお尋ねします。	1. 14 歳以下 2. 15～19 歳 3. 20～24 歳 4. 25～29 歳 5. 30～34 歳 6. 35～39 歳 7. 40～44 歳 8. 45～49 歳 9. 50～54 歳 10. 55～59 歳 11. 60～64 歳 12. 65～69 歳 13. 70～74 歳 14. 75 歳以上	
問 2-3 問 2-1 で移動の最も大きな原因となった方の性別についてお尋ねします。	1. 男性 2. 女性	
問 2-4 問 2-1 で移動の最も大きな原因となった方の職業についてお尋ねします。	1. 専門職 (医師、弁護士、大学教授、僧侶等) 2. 管理職 (官公庁や事業所の重役、部長等) 3. 事務・技術職 (一般事務員、公務員、技師、保育士、看護師等) 4. サービス従事者 5. 販売・生産・労務職 (店員、工員、職人、運転手、作業員など) 6. 農林水産業従事者 7. パート従事者 8. 学生 9. 自営業 10. 家事に専念している主婦 11. 無職 12. その他 ()	
問 2-5 問 2-4 で 1～8 と答えられた方にお尋ねします。現在の通勤・通学場所について記入して下さい。	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/> 都道府県 <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/> 市区町村	
問 2-6 問 2-1 で移動の最も大きな原因となった方は、戸田市には何年お住まいでしたか。	1. 1 年未満 2. 1～3 年未満 3. 3～5 年未満 4. 5～10 年未満 5. 10～20 年未満 6. 20 年以上	
問 2-7 問 2-1 で移動の最も大きな原因となった方は、現在お住まいの市区町村には以前にも住んでいたことがありますか。	1. 初めて 2. 住んでいたことがある	
問 2-8 問 2-7 で「2. 住んでいたことがある」と答えられた方に伺います。以前には何年お住まいでしたか。	1. 1 年未満 2. 1～3 年未満 3. 3～5 年未満 4. 5～10 年未満 5. 10～20 年未満 6. 20 年以上	

III 移動理由について 【回答欄】

問 3-1 移動のきっかけとなった理由を下記 (1～18) の中から選んで番号を記入して下さい。 ※第 2 理由についてはある方のみで結構です。													
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">学業上の理由</td> <td>1. 入学・進学</td> </tr> <tr> <td>職業上の理由</td> <td>2. 就職 3. 転職 4. 転勤 5. 家業継承 6. 定年退職</td> </tr> <tr> <td>住宅を主とする理由</td> <td>7. 住宅事情 8. 生活環境上の理由 9. 通勤通学の利便性</td> </tr> <tr> <td>親・子との同居・近居</td> <td>10. 親と同居 11. 親と近居 12. 子と同居 13. 子と近居</td> </tr> <tr> <td>結婚・離婚</td> <td>14. 結婚 15. 離婚</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>16. 子育て環境上の理由 17. 健康上の理由 18. 親等の介護 19. その他 ()</td> </tr> </table>	学業上の理由	1. 入学・進学	職業上の理由	2. 就職 3. 転職 4. 転勤 5. 家業継承 6. 定年退職	住宅を主とする理由	7. 住宅事情 8. 生活環境上の理由 9. 通勤通学の利便性	親・子との同居・近居	10. 親と同居 11. 親と近居 12. 子と同居 13. 子と近居	結婚・離婚	14. 結婚 15. 離婚	その他	16. 子育て環境上の理由 17. 健康上の理由 18. 親等の介護 19. その他 ()	第 1 理由 <input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/> 第 2 理由 <input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>
学業上の理由	1. 入学・進学												
職業上の理由	2. 就職 3. 転職 4. 転勤 5. 家業継承 6. 定年退職												
住宅を主とする理由	7. 住宅事情 8. 生活環境上の理由 9. 通勤通学の利便性												
親・子との同居・近居	10. 親と同居 11. 親と近居 12. 子と同居 13. 子と近居												
結婚・離婚	14. 結婚 15. 離婚												
その他	16. 子育て環境上の理由 17. 健康上の理由 18. 親等の介護 19. その他 ()												

IV 居住地選択の理由について		【回答欄】
問4-1 居住地として現在お住まいの市区町村を選択した理由をお尋ねします。 次の項目(1~20)から2つ選び、該当する番号を優先順位の高いものから回答欄に記入して下さい。		第1理由
1. 通勤・通学が便利であるから 2. 買い物等日常生活が便利だから 3. 道路事情がよいから 4. 広域的な公共交通の利便性が高いから 5. 市内公共交通の利便性が高いから 6. 良好な住環境が整備されているから 7. 子育て環境が充実しているから 8. 高等教育機関が充実しているから 9. 治安がよいから 10. 医療・福祉が充実しているから 11. 自然災害が少ないから 12. 公園や自然環境が豊かであるから 13. スポーツをする場が豊富であるから 14. 文化施設が充実しているから 15. 中心市街地に活気があるから 16. 就業の場が豊富であるから 17. 生まれ育ったところだから 18. 親等親族の居住地から近いから 19. あらかじめ住居が用意されていたから 20. その他()		第2理由
V 現在お住まいの市区町村への定住意向について		【回答欄】
問5-1 現在お住まいの市区町村には、今後も住み続けたいと思いますか。当てはまる番号を回答欄に記入して下さい。		
1. ぜひ住み続けたい 2. できれば住み続けたい 3. できれば他の市区町村に移りたい 4. ぜひ他の市区町村に移りたい 5. わからない		
VI 戸田市への帰還意向等について		【回答欄】
問6-1 機会があれば戸田市に戻りたいと思いますか。当てはまる番号を回答欄に記入して下さい。		
1. ぜひ戻りたい 2. どちらかといえば戻りたい 3. どちらかといえば戻りたくない 4. 戻りたくない		
問6-2 問6-1で「1. ぜひ戻りたい」又は「2. どちらかといえば戻りたい」と答えた方に、その理由をお尋ねします。 次の項目(1~20)から2つ選び、該当する番号を優先順位の高いものから回答欄に記入して下さい。		第1理由
1. 通勤・通学が便利であるから 2. 買い物等日常生活が便利だから 3. 道路事情がよいから 4. 広域的な公共交通の利便性が高いから 5. 市内公共交通の利便性が高いから 6. 良好な住環境が整備されているから 7. 子育て環境が充実しているから 8. 高等教育機関が充実しているから 9. 治安がよいから 10. 医療・福祉が充実しているから 11. 自然災害が少ないから 12. 公園や自然環境が豊かであるから 13. スポーツをする場が豊富であるから 14. 文化施設が充実しているから 15. 中心市街地に活気があるから 16. 就業の場が豊富であるから 17. 生まれ育ったところだから 18. 親等親族の居住地から近いから 19. あらかじめ住居が用意されていたから 20. その他()		第2理由
問6-3 問6-1で「3. どちらかといえば戻りたくない」又は「4. 戻りたくない」と答えた方に、その理由をお尋ねします。 次の項目(1~20)から2つ選び、該当する番号を優先順位の高いものから回答欄に記入して下さい。		第1理由
1. 通勤・通学が不便であるから 2. 買い物等日常生活が不便だから 3. 道路事情が悪いから 4. 広域的な公共交通の利便性が低いから 5. 市内公共交通の利便性が低いから 6. 良好な住環境が整備されていないから 7. 子育て環境が充実していないから 8. 高等教育機関が充実していないから 9. 治安が悪いから 10. 医療・福祉が充実していないから 11. 防災面での強化、充実が図られていないから 12. 公園や自然環境が豊かでないから 13. スポーツをする場が豊富でないから 14. 文化施設が充実していないから 15. 中心市街地に活気がないから 16. 就業の場が少ないから 17. 生まれ育ったところではないから 18. 親等親族の居住地から遠いから 19. 他に住む住居が用意されているから 20. その他()		第2理由
VII 移動前後の住宅の所有関係等について		【回答欄】
問7-1 住宅の所有関係についてお尋ねします。当てはまる番号を回答欄に記入して下さい。		
1. 持家(一戸建) 2. 持家(分譲マンション) 3. 公営住宅(公団・公社・市営住宅等) 4. 民間の借家(アパート・賃貸マンション等) 5. 民間の借家(一戸建) 6. 民間の借家(アパート・賃貸マンション等) 7. 学生寮 8. 間借り・下宿 9. 施設(病院・福祉施設等) 10. 親戚の家 11. その他()		移動前
		移動後
問7-2 住宅の床面積についてお尋ねします。当てはまる番号を回答欄に記入して下さい。		
1. 20㎡未満 2. 20~40㎡未満 3. 40~60㎡未満 4. 60~80㎡未満 5. 80~100㎡未満 6. 100~120㎡未満 7. 120~140㎡未満 8. 140~160㎡未満 9. 160㎡以上		移動前
※居住室の床面積のほか、玄関・台所・トイレ・浴室・廊下・押入れ等を含めてください。但し、営業用の部分及び他の世帯が使っている部分は除いてください。 ※床面積は1坪(2畳)を3.3㎡に換算してください。		移動後
ご協力頂き、ありがとうございました。		

3. まちづくり戦略会議の記録

○会議経過

第1回	平成22年5月13日 11:00～ 議案「(仮称)戸田市シティセールス戦略策定について」 ●戦略策定の意義について ①首長の地域経営方針を示すため、地域の関係者へのシティセールスの方向性を明示する。 ②戸田市のシティセールスの目的達成のため、施策・事業の構造、スケジュール、活動等を明確にした手順書を作成する。 ●今後のスケジュール等について
第2回	平成22年6月30日 15:30～ 議案「戸田市シティセールス戦略骨子(案)について」 ●骨子案の検討および推進体制の検討について ①観光協会・商工会・公園緑地公社等の外部団体の参加について、今後調整を図る。 ②推進戦略のターゲット設定にあたって、平成21年度の転出入動向調査を、過去3年間に拡大して調査する。 ③推進戦略1「様々なメディア、機会を活用した情報発信」、推進戦略2「発見！戸田市の魅力」については、各部局単位でアンケートを実施する。
第3回	平成22年7月29日 14:00～ 議案「戸田市シティセールス戦略骨子(案)について」 ●市民の転出入状況調査結果について ①平成19～21年度の転入者および転出者の状況報告を受けて、ターゲットを確定する。 ●各部局からの推進戦略(案)について ①推進戦略(案)の検討をする。 ②各部局単位に、推進戦略のイベントの内容・参加人数・場所・シティセールスの視点等について、追加のアンケートを実施する。
第4回	平成22年8月23日 13:30～ 議案「戸田市シティセールス戦略骨子(案)について」 ●推進戦略(案)の担当課の確定および予算化への対応確認。
第5回	平成22年9月27日 9:30～ 議案「戸田市シティセールス戦略(案)について」 ●戸田市シティセールス戦略(案)の確定。

4. まちづくり戦略会議メンバー

平成 22 年度戸田市まちづくり戦略会議メンバー			
	職名	氏名	備考
1	政策秘書室長	山本 義幸	
2	総務部次長	奥墨 章	
3	財務部次長	鈴木 敏貞	会長
4	市民生活部次長	辰口 文義	
5	福祉部次長	大泉 敏博	
6	こども青少年部次長	島崎 眞一	
7	都市整備部次長	中村 龍一	副会長
8	医療保健センター次長	須山 梅子	
9	水道部次長	徳永 廣明	
10	消防本部次長	森谷 精太郎	
11	教育委員会事務局次長	細渕 栄二	

